

報告

SGML による情報知識学会誌の編集印刷について†

石塚 英弘††

巻頭言にも述べられたように、本誌の編集・印刷は ISO 規格 8879 の SGML (Standard Generalized Mark-up Language、標準一般化マーク付け言語) を用いて行われた。そのため、見かけは通常の印刷物でも、工程は電子出版である。まず全文データベースを作成し、次いでそれを印刷している。全文データベースからは CD-ROM を作ることも技術的に可能である。無論それをするには著者の了解が必要であるが。

学会誌に SGML を適用した例はおそらく初めてと思われるので、実務担当の編集委員として概略を簡単に紹介したい。何かの参考になれば幸いである。

SGML では、文書は要素から構成されていると考え、テキストを要素ごとに分ける。なお、分割用のマークは DTD (ドキュメントタイプ定義) の中であらかじめ定義しておく。また、マークを付けることによって要素に分けるので、マーク付け言語と命名された。マーク付けの手法は個別にはいろいろ考えられるが、それを一般化したものが IBM の GML であり、これを発展させ標準化したものが SGML である。

本誌の場合も総説・論文ほか全ての文書について、タイトル、著者名、要約、章節のタイトル、本文、図、表、文献、注等々の要素を適宜設定した。また、要素間の関係も記述した。

編集と印刷の工程はつぎのとおりである。

1) 原稿の受領

採録が決定した原稿を著者からフロッピーディスクで受け取る。なお、JIS 外漢字などは文字コードでは判定できないので、紙に出力した原稿も参考までに添付していただいた。

2) SGML 形式への変換

各要素識別用のマークや、文献・図表参照用の

マークを原稿中に挿入した。その後、ソフトウェア Mark-IT* により原稿を SGML 形式に変換した。

3) 論理的レイアウトの指定

要素ごとに字の大きさや書体などを指定する。

4) ゲラ出力

出力フォーマットは $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の一種である $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を用いて記述する。その結果、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の出力としてゲラや版下が得られる。表の大部分と一部の図は $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で書いたが、一部の表と大部分の図は原稿をそのままスキャナーで取り込んで出力した。

5) 校正

原稿は著者が入力したもので、本文の校正は省略できる。この場合の校正は主として図表の割付のチェックである。不都合があれば $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の記述を修正する。また、通し頁の数のチェックも行う。

6) 版下出力

印刷用の最終的な版下を出力する。

上記の工程で本誌は印刷された。刷り上がりについては各頁をご覧いただきたい。 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の機能上の制限から図表の割付などで気になる所が無いことはないが、概ね良好である。もっとも、著者の方々にとってはご不満点もあろうかと思う。そのうちのいくつかは、SGML に対する当方の不慣れに起因するものであろう。その点をお詫びするとともに、著者の方々のご協力に対して深く感謝いたします。また、本誌刊行の遅れの原因は SGML にないことを付記しておきます。

最後に、SGML と $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の処理を担当された凸版印刷の各位に厚く御礼申し上げます。誠に世話になりました。また、SGML の採用を提案され、その後も何かとご助言いただいた根岸正光理事に感謝いたします。なお、紙面の割付作業でお世話になった石塚和美夫人にも感謝します。(1990 年 11 月)

†Editing and Printing of Journal of Japan Society of Information and Knowledge using SGML by Hidehiro Ishizuka

††図書館情報大学図書館情報学部

*SGML のパーサ。英国ヤードソフトウェアシステムズ社の登録商標。